

編集後記

今年の冬は暮まではたしかに珍しい暖冬であったが、お正月早々に関東地方には史上初の大雪があって、寒気も急にきびしくなった。このあとがきを書いている冬休み最後の日も、澄んだ青空に残雪が目にしみるほど白く、屋根から時々ドサッと雪が落ちてくる。今晚も冷えこむだろう。

本号がお手もとに届くころは再び暖冬に戻っているかどうか。また不況も4年目に入り、とどまるところを知らない円高に多少はブレーキがかかって来ているかどうか。今回の政府予算案をみても盛沢山の景気対策の割に福祉・文教予算は冷遇され、障害者にとってもわれわれリハビリテーション関係者にとってもまだきびしい冬が続きそうである。

さて本号は「失語症」の特集をおおくりする。失語症とその評価・治療はリハビリテーション医学の重要な一部門でありながら、ともすれば非常に専門的な分野として敬遠されがちであることも否定できない。それには適切な入門書、手引書がないことも大いに影響

していたと思われるが、今回の特集はその面でもそれを埋めるものであろう。福井氏の失語症の分類、笹沼氏の失語症の評価、綿森氏の言語治療の実際、竹内氏の言語治療の効果と、いずれも一流の筆者による詳しい総説的紹介であり、これだけの内容のものが一冊にまとめられたのははじめてといってもよい。深い内容をもちつつ同時に失語症への入門として初学者にも有益な特集であり、ぜひ御一読をおすすめしたい。

安藤氏の巻頭言の「障害学を広すぎるといふのは三次元の世界を二次元に投影して理解したとすることからくる誤解」とはユニークな表現として印象深い。「リハビリテーション医学が深いとは思っても広いと思ったことはない」という氏の発言にも共感を禁じ得ない。氏のいわれる通り、リハビリテーション医学の教育・研修体制の整備充実は現在の急務であり、その面で今年が総り多い年であるようにお互いに努力したいものである。

(上田 敏)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 因 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告(第6巻第3号)

特 集 難病のリハビリテーション

スモンのリハビリテーション……………東北大鳴子分院 杉 山 尚
脊髄小脳変性症のリハビリテーション……………名古屋大 祖父江 逸 郎
ペーチェット病のリハビリテーション……………帝京大 稲 葉 午 郎
悪性関節リウマチのリハビリテーション……………慶応大 本 間 光 夫
肺線維症のリハビリテーション……………国療東京病院 芳 賀 敏 彦

講 座 筋・神経系の電気診断(3)(手技の実際、記録)……………川崎医大 明 石 謙
一頁講座 関節(3)(関節の組織学)……………慈恵医大 赤 松 功 也